
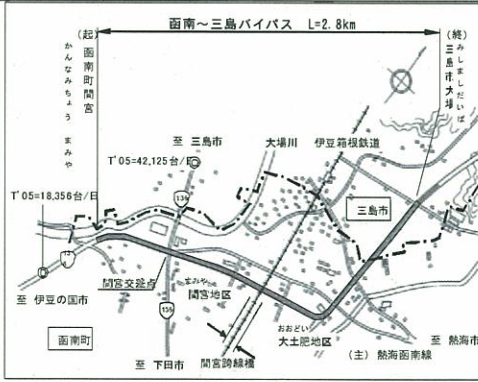


再評価結果（平成19年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課
担当課長名：木村 昌司

事業名	一般国道136号 函南～三島バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	静岡県										
起終点	自：静岡県田方郡函南町間宮 至：静岡県三島市大場			延長	2.8km										
事業概要 一般国道136号は、静岡県下田市を起点とし、同県三島市に至る延長約133km、改良率91%の幹線道路である。 函南～三島バイパスは、東駿河湾環状道路として都市計画決定された路線の一部であり、伊豆縦貫自動車道へのアクセス道路となる、函南町間宮から三島市大場に至る延長2.8kmの4車線道路である。															
H9年度事業化	S62年度都市計画決定	H9年度用地着手	H17年度工事着手												
全体事業費	約200億円	事業進捗率	56.1%	供用済延長	0.0km										
計画交通量	19,300台/日														
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 3.4 (事業) 4.9	総費用 (事業)/ (事業全体) 261/377億円 (事業費：258/374億円) (維持管理費：3/3億円)	総便益 (事業)/ (事業全体) 1275/1275億円 (走行時間短縮便益：1175/1175億円) (走行費用減少便益：65/65億円) (交通事故減少便益：35/35億円)	基準年 平成18年											
事業の効果等 ・円滑なモビリティの確保（現道の渋滞損失時間県内上位2割区間の解消が見込まれる） ・個性ある地域の形成（伊豆半島へのアクセス向上が期待できる）他11項目に該当															
関係する地方公共団体等の意見 東駿河湾環状道路は地域間交流の促進、交通混雑の緩和に重要な役割を果たすことが期待されており、地元の函南町より早期整備の要望（平成18年8月）を受けている。															
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 社会経済の発展や市町村合併による交流の活性化に伴い当該路線への交通需要が高まっており、沼津・三島都市圏における交通渋滞は深刻化している。															
事業の進捗状況、残事業の内容等 平成17年度末時点で用地買収は75.6%（面積ベース）完了しており、今後本格的に道路工、橋梁工の推進を図っていく。															
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 事業推進に対する地元要望は強く、用地買収も平成18年度末には8割（面積ベース）に達する見込みであることから、今後も用地買収及び工事の推進を図る予定である。															
施設の構造や工法の変更等 今後も新技術・新工法等を積極的に導入し、コスト削減を図るよう検討していく。															
対応方針	事業継続														
対応方針決定の理由	以上の状況を勧案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。														
事業概要図															
				<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <th colspan="2">凡 例</th> </tr> <tr> <td>———</td> <td>供 用 中</td> </tr> <tr> <td>■■■■■</td> <td>事 業 中</td> </tr> <tr> <td>▨▨▨▨</td> <td>再 評 価 箇 所</td> </tr> <tr> <td>▨▨▨▨</td> <td>う ち 供 用 中</td> </tr> </table>		凡 例		———	供 用 中	■■■■■	事 業 中	▨▨▨▨	再 評 価 箇 所	▨▨▨▨	う ち 供 用 中
凡 例															
———	供 用 中														
■■■■■	事 業 中														
▨▨▨▨	再 評 価 箇 所														
▨▨▨▨	う ち 供 用 中														

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。